

救急科専門研修プログラム

（１）プログラムの全体像

救急医療では手遅れとなる前に診療を開始することが極めて重要である。しかし、救急患者に対する医療を開始する段階では、罹患臓器や病態、緊急度が不明である。どんな状況でも患者の生命に対する安全を確保するためには、いかなる臓器のいかなる病態や緊急性にも対応できる専門医が必要となり、そのための救急科専門医を育成する事が本プログラムの主な目的となる。また、救急医療においては、必要な診療科との連携や、多職種との調整も必要となる。また、新たな治療法の開発が無ければ、救急医療は進化しない。当プログラムでは救急医療における病態の高度な解析能力や技術の習得のみならず、他診療科や多職種との良好な調整を行う能力、新たな治療方法開発の着想と実現方法、さらには救急・災害医療での指導的能力も獲得できるように配慮している。

（２）プログラムの概要

３年(36 カ月)の研修期間は、１) 基幹施設での研修 12 か月（重症救急症例についての病院前診療・初期診療・集中治療）、２) 連携施設での同研修 12 か月、３) ER 診療部門での ER 研修 12 か月（初期、二次救急診療）より構成される。３) については希望により期間を調整する。また、ドクターヘリ研修は基幹施設での研修に含まれており、ドクターカー研修が可能な施設もある。

基幹施設（大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター）での研修（12 か月） （ドクターヘリ研修含む）
連携施設でのクリティカルケア研修（12 か月）
ER 診療部門での ER 研修（12 か月）



基幹・連携施設群

医療機関名	診療科名	主な研修内容
大阪大学医学部附属病院	高度救命救急センター	クリティカルケア・ドクターヘリ・MC・災害医療・他科領域研修
大阪急性期・総合医療センター	高度救命救急センターおよびER・総合診療部門	クリティカルケア・ER・MC・災害医療・ドクターカー・他科領域研修
大阪医療センター	救命救急センター	クリティカルケア・MC・災害医療・他科診療研修
大阪警察病院	救命救急センターおよびER部門	クリティカルケア・ER・MC・災害医療・他科領域研修
中河内救命救急センター	救命救急センター	クリティカルケア・ドクターカー・災害医療
石切生喜病院	救急部	ER・地域医療・他科領域研修
大阪赤十字病院	救命救急センター	クリティカルケア・ER・MC・災害医療・他科領域研修
日本生命病院	救急診療科	ER・MC
多根総合病院	救急部	ER・地域医療・MC・他科領域研修
加納総合病院	救急部	ER・地域医療・災害医療・他科領域研修
関西ろうさい病院	救急部	ER・MC・災害医療・他科領域研修
堺市立総合医療センター	救命救急センター	クリティカルケア、MC、災害医学、他科領域研修
JCHO中京病院	救命救急センター	クリティカルケア、地域医療、MC、災害医療
住友病院	救命救急センター	ER・MC

(3) 本プログラムで得られること

大阪大学高度救命救急センターは、国立大学で初めての救急部（救急医学講座）として発足し、以降一貫してわが国の救命救急医療をリードしてきたパイオニアであり、年間約 1000 症例の重症救急症例を収容・治療している。2008 年よりはドクターヘリの運航を開始、周辺地域に発生した最重症例や災害時医療への対応も可能となり、専門医育成のための環境は十分に整っている。本プログラムで学ぶ者は大阪大学での 1 年間の研修が必ず含まれる。また、本研修で以下の能力が習得できる。

- 1) 救急における様々な傷病に対して緊急度・重症度を的確に判断し、適切な初期診療を行える。
- 2) 複数患者の初期診療に同時に対応でき、優先度を判断できる。
- 3) 重症患者への集中治療が行える。
- 4) 他の診療科や医療職種と連携・協力し良好なコミュニケーションのもとで診療を進めることができる。
- 5) 病院前診療を理解し、的確な対応を行える。
- 6) 病院前救護のメディカルコントロールが行える。
- 7) 災害医療を理解し、指導的役割を発揮できる。
- 8) 救急診療に関する教育指導が行える。
- 9) 救急診療の科学的評価や検証が行える。

- 1 0) 最新の標準的知識や技術を習得し、プロフェッショナリズムに基づき継続的に学習を行い能力を維持する。
- 1 1) 救急患者の受け入れや診療に際して倫理的配慮を行える。
- 1 2) 救急患者や救急診療に従事する医療者の安全を適切にアセスメントし、安全確保ができる。

(4) プログラムの指導状況

大阪大学及び連携施設の救命救急センターには、救急医学会指導医が多数従事している。すべての施設において、専攻医 1 名に対して指導医が 1 名以上在籍しており、十分な指導体制が整備された環境で 3 年間の研修を進めている。各施設に置かれた委員会組織の連携のもとで、6 か月に 1 回会議を開催し、専攻医一人ひとりの研修状況共有している。連携施設との協力により、施設毎の救急症例の偏りを専門研修施設群として補完しあい、各専攻医が必要とする全ての疾患・病態、診察・検査等、手術・処置等を経験できるように配慮している。併せて、各連携施設は、年度毎に診療実績を基幹施設の救急科領域研修委員会へ報告している。

(5) 専門医の取得等

本プログラム修了により、日本専門医機構が認定する救急科専門医の受験資格が取得できる。また、救急科専門研修プログラムを進めながら、他の専門医として、日本外傷学会外傷専門医、日本熱傷学会熱傷専門医、日本集中治療学会専門医、日本中毒学会クリニカルトキシコロジストなどの取得を目指すことができる。

なお、内科、外科、整形外科、総合診療科の専門医を取得した方は、カリキュラム制に変更することで、救急科専門研修を 2 年間で修了することができる。

集中治療専門医コース

詳細は 102 ページを参照してください。



■ 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター

担当者 入澤 太郎

✉ irisawa@hp-emerg.med.osaka-u.ac.jp

診療科ホームページ <https://www.osaka-u-taccc.com/>

